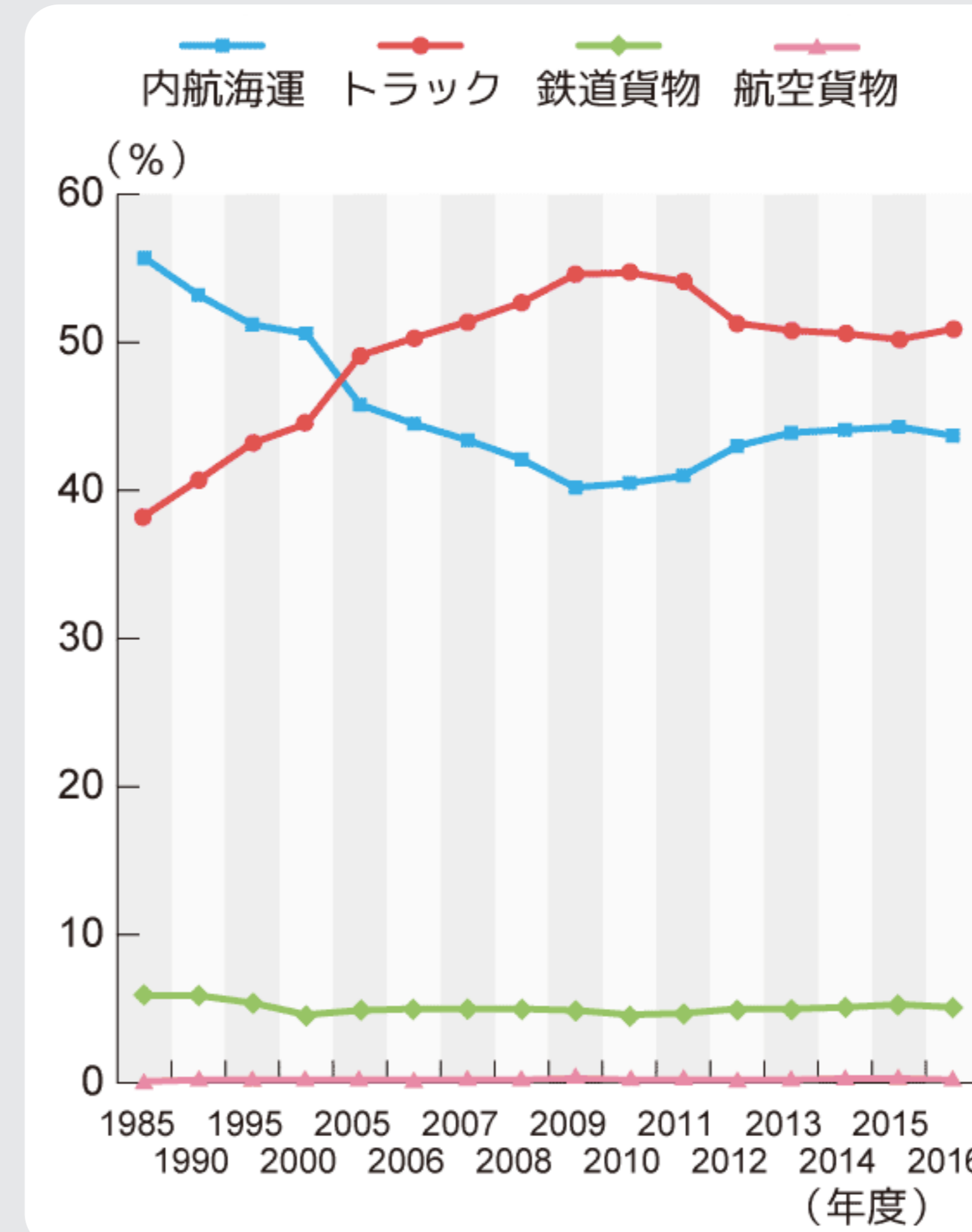


食品が消費者に届くまでにかかる輸送エネルギー

食品の輸送には、車、飛行機、船などが使われます。食品の輸送にはトラックが便利です。トラックは依頼先から目的地まで積み替えずに運べます。また、鉄道や船などとは違い、時間の制約もありません。高速道路が日本全国に整備され、遠くの目的地にも速く届けることができるようになったため、国内貨物輸送量の約5割をトラックが占めています。

一方で、トラックでの輸送は地球温暖化の原因の1つである二酸化炭素CO₂を排出します。国や企業は、持続可能な物流システムを目指し、輸送エネルギーを減らす取り組みを始めています。



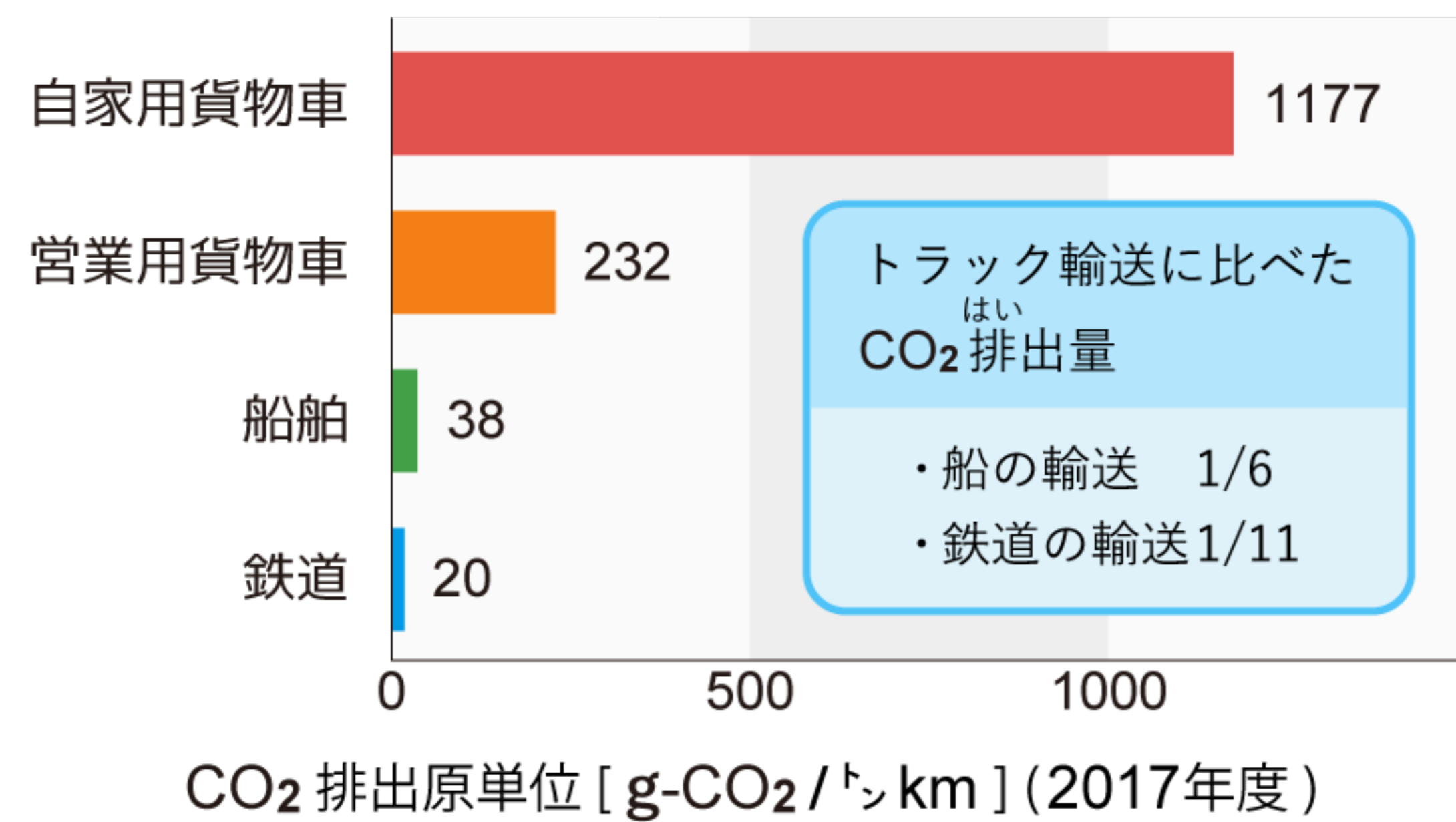
食品が消費者の倉庫に届くまで(国内版)

国内貨物輸送量の割合の推移 出典「国土交通省」

輸送エネルギーを減らす取り組み

① モーダルシフト

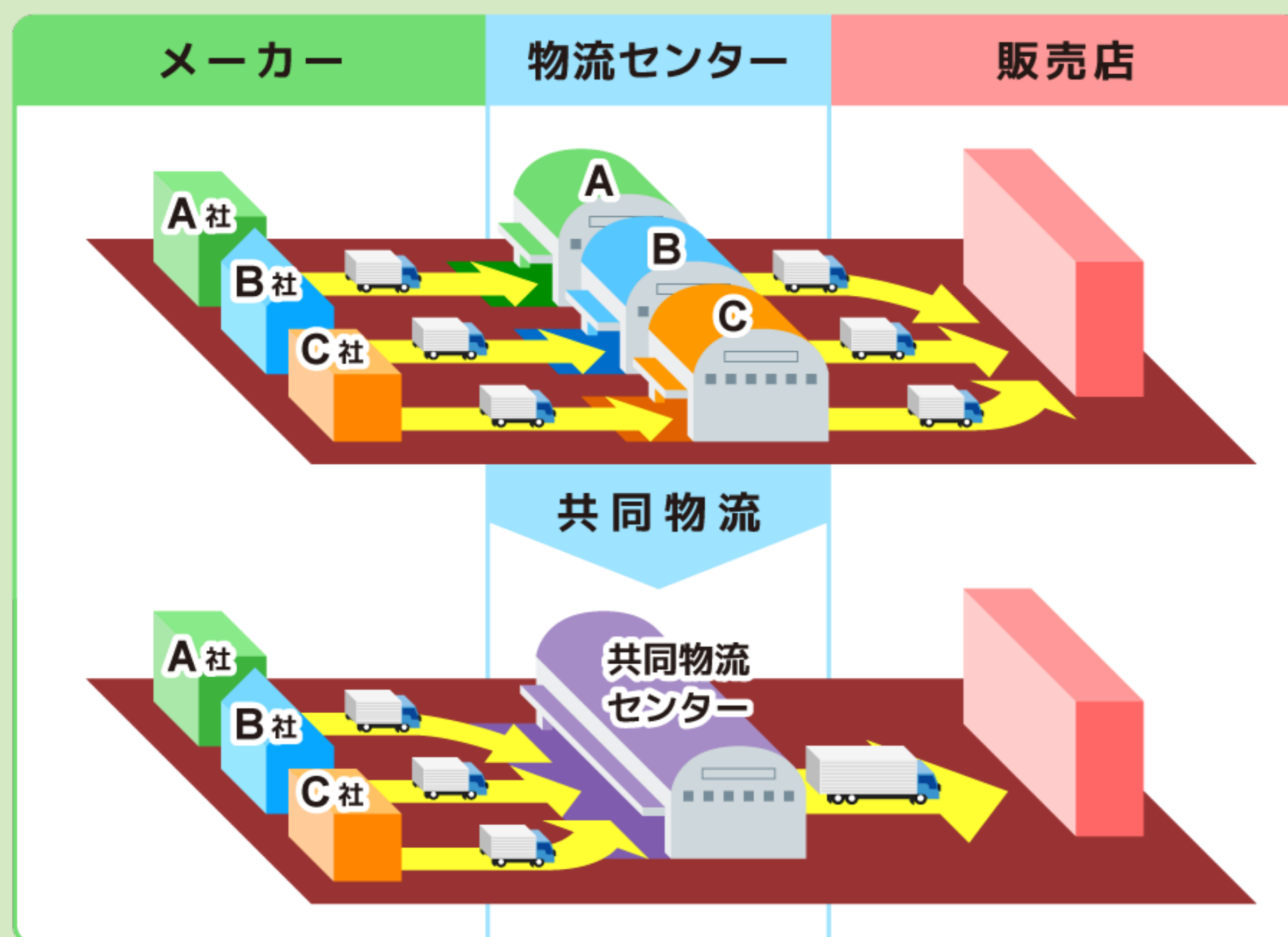
輸送量あたりのCO₂の排出量(2017年度)



出典「国土交通省」

トラックなどの車より、環境負荷の少ない鉄道や船に輸送手段を転換することを「モーダルシフト」といいます。1トンの貨物を1キロ運ぶ(トンキロ)ときに排出されるCO₂の量をみると、トラック(営業用貨物車)が232であるのに対し、船なら38、鉄道なら20しかありません。こうしたことから、地球温暖化対策として、モーダルシフトは有効です。

② 食品会社合同による輸送効率



食品会社が各自のトラックで販売店に運ぶより、食品会社が共同して計画的に荷物を運ぶことにより、1台のトラックでたくさん荷物を効率よく運べるようになります。トラックの台数を減らすことができます。CO₂排出量を減らすことができます。さらに、各会社の経費削減にもつながります。さらに、今後進むと考えられるトラックドライバー不足への対応策としても有効です。

目安となるエコレールマーク



A社

従来からの輸送は「いかに早く安く効率よく運ぶか」の競争でしたが、地球温暖化防止の観点から、500キロメートルを超えるような長距離の輸送にはCO₂排出量の少ない貨物列車を利用する動きが急速に高まっています。企業としての責任として、輸送手段の転換を積極的に進めていきたいと考えています。



B社

砂糖の原料は「サトウキビ(沖縄産)」とされている方が多い中、エコレールマークを取得したことで、当社の砂糖の原料が「てん菜(北海道産)」だということを消費者に広く知ってもらうよい機会となりました。



協力：(公社) 鉄道貨物協会

東京都消費生活総合センター

企業が商品を輸送する時にエネルギー削減に努力しているかどうかは、一見して見分けが付きません。1つの目安となるのがエコレールマークです。エコレールマークとは、貨物鉄道を一定割合以上(*)利用している商品に付けられるマークです。

*500キロメートル以上の陸上貨物のうち30%以上鉄道を利用しての商品にエコレールマークが認定されます。



世界の未来をかえる店

地域のくらし応援します!

毎月10日はサービスデー

エシカルスーパーマーケット

営業時間 AM10時~PM8時